

「ほっとかれへん」 人がいる。

交野市
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）
活動・事例報告書



交野市CSWイメージキャラクター
「きつつじ」

CSW合同会議

目次

- ・ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは？？
／相談の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・ 交野市のCSWマップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・ CSWの活動紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・ 他機関との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ・ ここで紹介する各事例の要約・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 事例① 父子家庭世帯の家庭環境の改善と自立した
生活への支援～生活困窮者レスキュー事業・・ 6
- 事例② いくつかの課題を抱えた独居男性への生活
立て直し支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 事例③ ひきこもり状態にある人への寄り添い支援
はち まる ごー まる
～8050問題～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- ・ よくある質問コーナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15



「きつつじ」は、交野市の花「つつじ」と鳥「きじ」を組み合わせた、交野市で活動するコミュニティソーシャルワーカー（CSW）のイメージキャラクターです。
交野市に馴染みやゆかりの深い花や鳥のような存在になれたらという思いで誕生しました。

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは??

- ・福祉のなんでも相談窓口です。
- ・年齢問わずどなたでもご相談いただけます。（相談無料・秘密厳守）
- ・気持ちに寄り添いながら、安心した生活のために一緒に考え支援します。
- ・相談内容に応じて福祉制度やサービス等の情報を提供しながら必要な機関におつなぎします。

相談の流れ



STEP 1

- ・ お話をお伺いします。
→ 電話、訪問、メールなど様々な相談方法に対応しています。

STEP 2

- ・ 解決していく方法を一緒に考えます。
→ 福祉制度やサービス等の情報を提供



STEP 3

- ・ 相談内容に応じて、必要な関係機関におつなぎします。
→ 状況に応じて関係機関への同行や手続きの支援も行っています。



交野市のCSWマップ

何かお困りのことがありましたら、気軽にご相談ください。

社会福祉法人 豊年福社会 明星

《 地域福祉サポートセンター 》

住所: 交野市星田8-6-7

TEL: 072-891-4974

FAX: 072-891-2093

Mail:

honen.chiiki@theia.ocn.ne.jp



社会福祉法人 かたの福社会

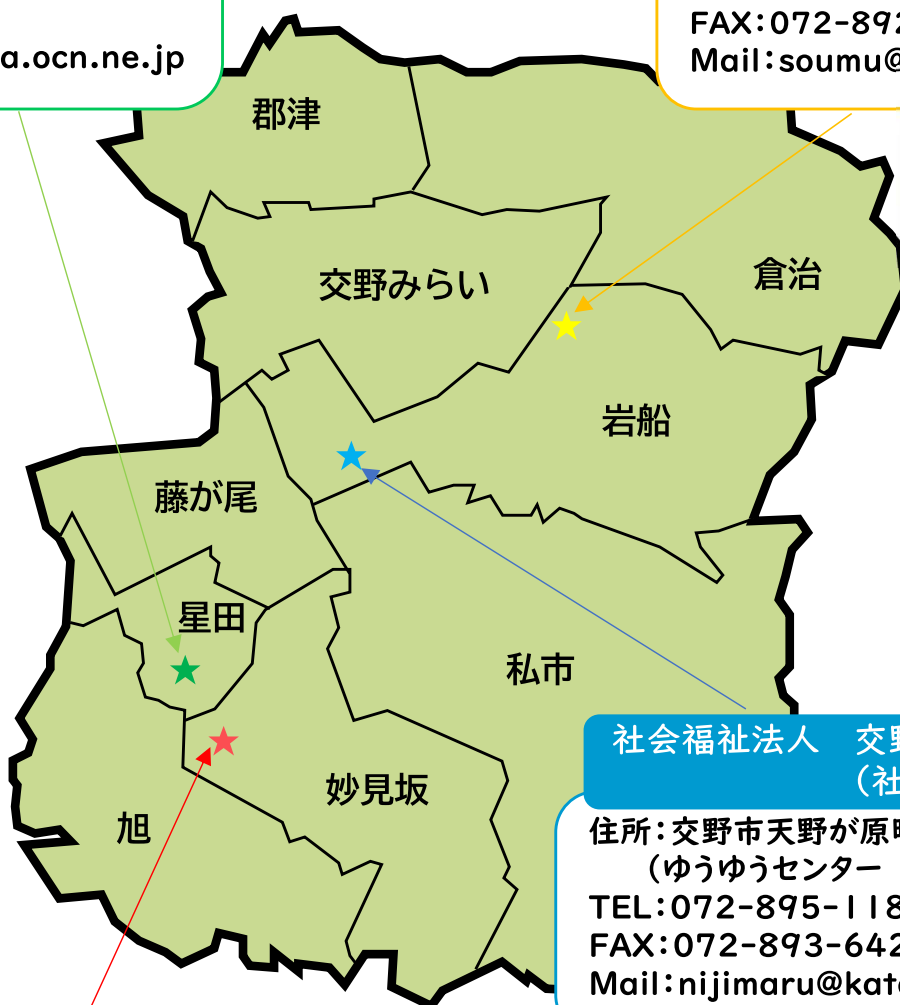
《 ワークハウスやわらぎ 》

住所: 交野市寺4-590-1

TEL: 072-892-6671

FAX: 072-892-6620

Mail: soumu@yawa.net



社会福祉法人 交野市社会福祉協議会 (社協)

住所: 交野市天野が原町5-5-1
(ゆうゆうセンター 3F)

TEL: 072-895-1185

FAX: 072-893-6423

Mail: nijimaru@katano-shakyo.com



社会福祉法人 もくせい会 きんもくせい

《 ケアハウスきんもくせい 》

住所: 交野市南星台2-5-15

TEL: 072-895-2468

FAX: 072-895-2469

Mail: kinmokusei1995@nifty.com



お問い合わせ
二次元コード

CSWの活動紹介(一部)

○生活困窮者に対する緊急支援 (大阪しあわせネットワーク)

・総合生活相談事業(生活困窮者レスキュー事業)

⇒公的制度、サービスなどの支援が受けられず、生命に関わる緊急・窮迫した状況にある方に「大阪府社会福祉協議会・老人福祉部会としての経済的支援(現物給付)・短期滞在場所の提供等」を行います。

・食材支援

⇒食べるものがない窮迫した状況にある方に「フードドライブ」で、ご寄付頂いた食品(レトルト、缶詰、乾麺、調味料、お菓子など)を提供します。



・かぐでんネットワーク

⇒まだ使用できる家具や電化製品、衣類、寝具などを地域住民や関係者からご寄付頂き、施設で保管。経済的に困りの方に無料で提供します。



○居場所支援

・かたの×サードプレイス

社会的なつながりがない、社会参加ができていない(不就労、不登校、ひきこもり等)人が気軽に集まれる、第3の居場所。

・かたプレカフェ

拠点を交野市内の施設にうつし、共通の趣味や関心をテーマに参加者で共有する居場所。

・農園体験

拠点を農園にうつし、農作業や生産活動を通して楽しさや達成感、他者交流を持つ場。



・親のつどい

不登校・ひきこもりの悩みを抱える親が思いを話したり、他の家族の話聞き情報共有する場。

他関係機関との連携

○関係機関のつながりを深めることで、高齢・障がい・子どもなど、分野を越えた支援活動や地域の仕組みづくりを行います。

・CSW合同会議

福祉相談の窓口であるコミュニティソーシャルワーカーと関係機関（高齢、保育、教育、生活困窮、重層分野）が集まり、交野市内に住む子どもから高齢の方の支援や地域の仕組みづくりの充実を図るために開催しています。

・社会福祉施設地域貢献連絡会

高齢・障がい・保育の各分野の社会福祉法人の福祉施設が地域福祉の向上に寄与することを目的に、地域貢献活動を行っています。

活動例：きみのしらないかたの ザ☆クイズラリー





ここでご紹介する 各活動事例の要約



事例①父子家庭世帯の家庭環境の改善と自立した生活への支援 ～生活困窮者レスキュー事業～（P.6～P.8）

- (1)子ども達と関わりをもつ。
- (2)家族と支援者で目標の共有。
- (3)支援を一緒に行う。
- (4)再度お話を聞く。
- (5)多職種連携
- (6)生活環境を整えて、子どもたちが出来ることを増やす。

事例②いくつかの課題を抱えた独居男性への生活立て直し支援（P.9～P.10）

- (1)本人とのこれまで関わりと現状について、支援者間で情報を共有する。
- (2)支援者が訪問を重ねて、困りごとを明確にしていく。
- (3)本人の揺れる気持ちによりそいながら、将来の生活について意思決定できるように根気強く支援を行っていく。
- (4)本人が「軽費老人ホーム」での生活を意思決定した後は、自宅内の片付けを市民ボランティアも加わり、目標に向かって後押しを行った。

事例③ひきこもり状態にある人への寄り添い支援～8050問題～ （P.12～P.14）

- (1)本人とのつながりのきっかけづくりを経て、信頼関係を築く。
- (2)本人のお困りごとの聞き取りから、施設CSWと連携し、本人と一緒に自宅内清掃を行う。
- (3)施設CSWによるかぐでんの支援（冷蔵庫）と地域の人との協力による草刈りや片付け、収支の確認から一緒に考える支援へ。

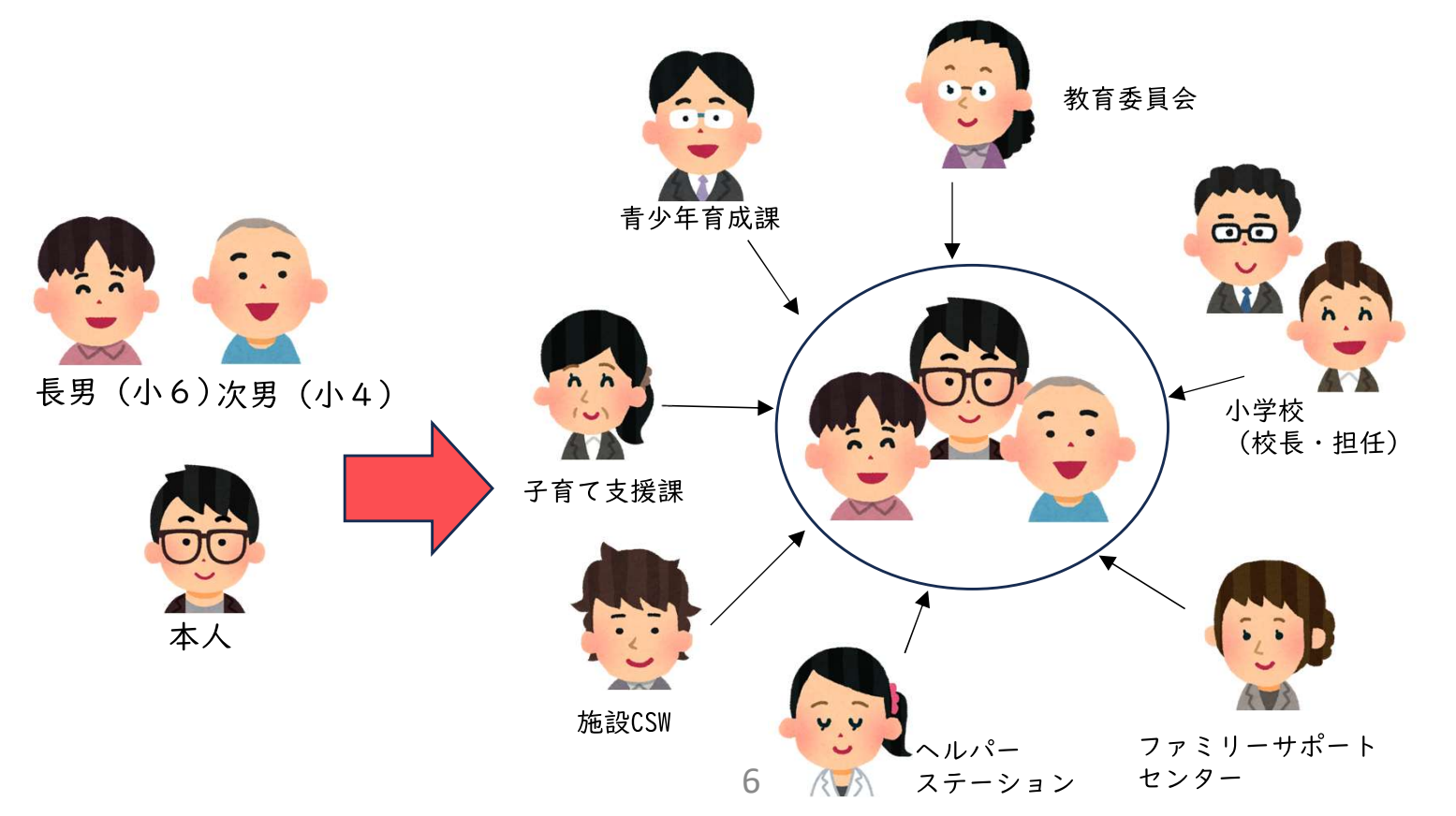
※支援機関の名称は支援時点での名称を記載しています。

事例①

父子家庭世帯の家庭環境の改善と自立した生活への支援～生活困窮者レスキュー事業～

対象者	男性
世帯状況	本人、長男（小6）、次男（小4）
相談経路	子育て支援課→施設CSW
関係機関	子育て支援課、施設CSW、ヘルパーステーション、小学校（校長・担任）、教育委員会、青少年育成課、ファミリーサポートセンター
相談主訴	家庭環境の改善 と自立した生活を行いたい
相談背景	長男、次男が着の身着のまま登校。髪も伸び切り、入浴もできていない言動や不衛生な様子もみられた。担任の先生が異変を感じ家庭訪問を実施。自宅内も不良な生活環境であった為、校長と自宅内の確認を行い、子育て支援課に連絡。福祉的支援が必要と判断し、施設CSWに連絡が入り、支援を行うこととなる。

支援前	CSWによる支援後
-----	-----------



支援内容

支援経過① 子ども達と関わりをもつ

子育て支援課と自宅訪問実施。片付け等はまったくできておらずゴミ屋敷状態。長男、次男からは入浴ができていない事もわかり、施設と一緒にいき、伸び切った髪を理容師免許をもつスタッフが散髪し入浴をする。その後、コンビニ弁当や総菜、お菓子等長期食べていたこともわかり、手作りのあったかいおにぎり等の食事を準備し食べてもらう。合間の時間にウサギと触れ合うなど、スタッフと心のケアに努める。



きれいになって
すっきりしたよ！

いただき
まーす



支援経過② 家族と支援者で目標の共有

本人も今の生活環境が良くないと認識していたが、仕事で家に居ないことが多かった為どうしていいかわからなかった。子どもたちとも一緒に話しをすると、本人と同じく生活環境が良くないと思っていた。
みんなで生活環境を整えることになった。



家族みんなで
がんばろうよ！

支援経過③ 支援を一緒に行う

荷物の片付けを子どもたちと一緒に実施。一緒に行うことで、子どもたちにも掃除の方法や、自分できれいにしたという自覚を持ってもらう。子育て支援課2名、施設職員6名体制で清掃を行う。2トントラック一台分のごみを処分する。



僕たちも
おうちをきれいに



支援経過④ 再度お話を聞く

本人に元妻と離婚理由や養育状況の事を聞く。義母が子どもの面倒を見てくれるといったが、突如面倒を見てくれなくなったことでも借金が増えて、育児や就労に対しても不安があることを話される。子どもたちへの愛情があるが本人の不安の気持ちが勝ってしまう事がある事がわかった。



いったい
どうすれ
ば・・・



支援経過⑤ 多職種連携

上記にあるすべての関係機関とカンファレンスの実施。本人の思い。子どもたちの思い。今抱えている問題。将来の為の目標設定や役割り分担と情報の共有を行う。

子どもたちが出
来ることは？

必要な
支援は？

私がやります



支援経過⑥ 生活環境を整えて、子どもたちが出来ることを増やす

大阪しあわせネットワークの生活困窮者レスキュー事業を活用し、必要な家具や寝具や日用品等を購入し、家の生活を子どもたちと一緒に整える。家族の状況を経過観察、市の養育支援事業が開始になると終結する。その後は、市の養育支援訪問事業でヘルパーステーションが週2回掃除・洗濯・子どもたちの見守りと子どもたちも出来る事が増えるような支援の実施。



自分で出来た！！



支援経過⑦ まとめ

本人と面談し気持ちの変化が見えた。子どもが学校に通えている事、仕事を少しセーブして子どもとの時間を作り家族の会話が増えた。今後はゲームだけでなく、宿題ができるようにしたい。コンビニ弁当等ではなく、手づくりのご飯を食べさせたい。目標を持ち、生活の見通しが立つことで本人の表情も明るくなり、順調に支援の効果が出ている様子が伺えた。



おうちがきれいになった！



学校楽しいよ！



用語

・ファミリーサポートセンター
冠婚葬祭や病院、美容院等に行くのに子どもを預かってもらいたい」「認定こども園や放課後児童会のお迎えをお願いしたい」等、子育てをサポートしてほしい方（依頼会員）と、子育てをサポートしたい方（提供会員）が地域の中でお互いに助け合いながら子育てをするネットワークです。センターのアドバイザーがそれぞれの希望に合わせて会員同士の仲介を行います。

・大阪しあわせネットワーク
大阪府社会福祉協議会とその会員の社会福祉法人が、“社会福祉法人の使命”として、既存の制度では対応ができない“制度の狭間”で困っている人々に向き合い、それぞれの特徴や強みを活かした地域貢献事業を展開し、ひとりひとりのしあわせを支える活動をしています。

この事例を振り返って

コロナ禍で生活の在り方が変わり、福祉を必要とする人の課題が多様化している。地域住民の相互の関係も希薄し、孤立した人は更に孤立化しSOSが出せない事もある。

相談内容により課題を解決するにはCSWの福祉対応だけでは困難な事もある。

日頃から多職種連携を意識し、担当者会議では支援の方向性を共有が必要である。多職種と支援をすることで、意欲低下した本人や子どもたちの心のケアや新たな気づきを得た。見守りの継続と、相談できることをしっかりと伝えることが一人で抱え込まない伴走支援にもつながる。

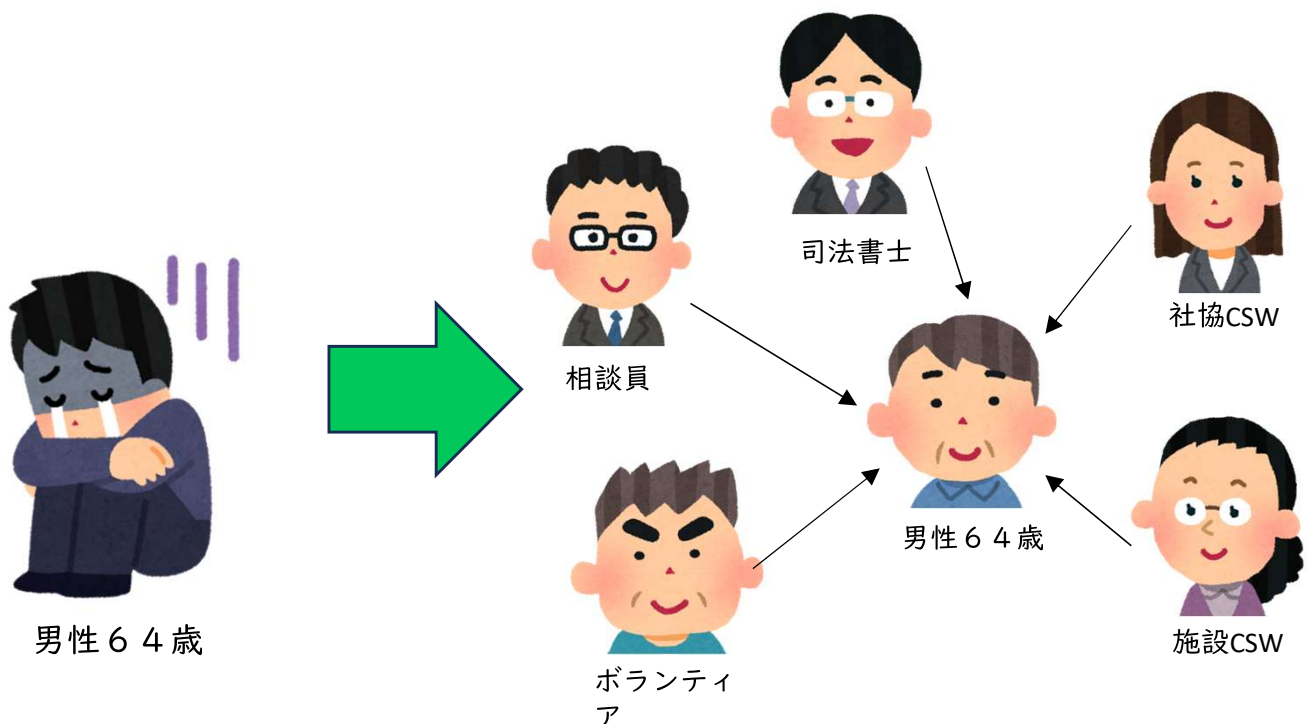
また、施設の環境と元理容師のスタッフがいる資源を持っていたことが、子どもたちの入浴や散髪の実施や緊急時には子どもの預かりもできる事や地域の方の利用施設としての役割もある。

今後も子ども・障がい・高齢者の地域相談の窓口として、「しあわせネットワーク」が地域に根付く活動が求められる。

事例② いくつかの課題を抱えた独居男性への生活立て直し支援

対象者	64歳 男性
世帯状況	ひとり暮らし
相談経路	法人内 障がい部門の相談員→施設CSW
関係機関	社協CSW、障がい者相談支援センターの相談員、司法書士
相談主訴	障がい部門の相談員が支援する20代女性（知的障がい）に父（本人）がおり、女性に関わっている中で、父（本人）にいくつかの生活課題があることに気づく。父（本人）は高齢者であり、障がい分野である自分たちの範囲外になるので、施設CSWとして関わって欲しい。
相談背景	本人は相次いで妻と実母を亡くし、妻の連れ子であった二人の子どもがそれぞれに巣立ち、独居生活となった。家族も職も失い独りになったことからくる喪失感と寂しさが加わり深酒をし、転倒、栄養不足という状態に加え、収入に合わない支出による赤字の家計と滞納を繰り返していた。 関わっている中で、これらいくつかの生活課題があることに気づき、法人内障がい部門の相談員より施設CSWに連絡が入り、支援に入ることになる。

支援前	CSWによる支援後
-----	-----------



支援内容

支援経過① 事前に情報を共有する

相談員と共に関わっていた社協CSW、施設CSWと3人で事前カンファレンスを行い、情報を共有した上で今後の関わり方について話し合う。



ご家族は、・・・
生活の状態は、・・・
本人の思いは、・・・

支援経過② 困りごとを確認し、支援の方針を立てる

CSWは社協・施設の2名体制で訪問、状況を聴き取り、把握しアセスメントを行う。国保険料、電気、ガス、水道代、家賃の支払いが遅れがちになっている。収入に応じた生活が苦手な様子であり、収入と支出を計算し、お金の使い方を見直すため、その後1～2週間に一度の割合で訪問を重ねることになる。



お金の管理ができなくて・・・

支援経過③ 本人の「現実逃避」と「新たな生活の場」の提案

2名のCSWは車の処分、生命保険の見直し等も含む収支の具体的なアドバイスをし続けるもなかなか継続せず、どうしてもマイナスの家計となってしまう。食生活もバランスを欠き、更に飲酒も止まず、地域の中で飲酒により乱暴な言葉、階段での転倒を繰り返す。



母親と妻を亡くし、寂しさのあまり、酒を飲んで、トラブルを起こしてしまう。

ひとり暮らしの生活が続けるにはリスクが高く、軽費老人ホームへの入居提案を行う。しかし、「住み慣れたここを離れたくない。」と渋り顔が続く。しかし、独りでの生活の寂しさと、収支を合わせることができないことの自覚が生まれ始め、「（軽費老人ホームは）どんなところか見に行ってもいいと思います。」との言葉が聞かれるようになった。



老人ホームへのご入居は
どうですか。

支援経過④ 「将来」を見据えた、気持ちの切り替わり

老人ホームの見学を行った後「ああいう所も安心やと思います。ここに一人でいても寂しいだけやし。」とつぶやいた。



老人ホームも悪くないな。
行ってみよう。

支援経過⑤ 多様な支援者の協力

少しずつ家の片づけを提案し、市民ボランティア3名に数回入ってもらい、家財道具を整理、処分、するお手伝いした。本人は支援者が案ずるよりも思いきり良く、処分するもの、必要なものを判断していった。



ボランティアの協力で自宅内の整理も進み、本人の安心感につながりました。

支援経過⑥ 施設での新たな生活がスタート

こうして、軽費老人ホームに入居に至った。



ありがとうございました。
がんばります。

用語

・軽費老人ホーム

主に自立した生活が可能な高齢者が対象。低料金で住居や食事、入浴、日常生活の支援を提供します。必要な方には、ヘルパーなどの外部サービスを利用することができます。

・市民ボランティア

主に高齢者宅に訪問して、介護サービスでは対応できない電球の交換や大掃除、話し相手なども含む、幅広い活動を行っている団体。

この事例を振り返って

こちらは支援者の私たちにとってもその年を代表する大きな事例で、一人の男性の人生が大きく変化していくプロセスを間近で見ることになった。
家族との別れからくる底知れない「孤独」、仕事との別れ、自暴自棄の生活、そもそもの社会を生きていく力が低い（後に専門の医療機関での検査で11歳7か月程度の知的レベルであることが判る。）ため起る社会の仕組みへの対応不全。いくつもの問題や課題が本人の上に押し掛かっていた。

それまでは親や妻に「助けてもらって」生活がこなせていたのだろうが、独りになってしまうとたちまち生活が成り立って行かなくなった。

この状況を障がい者相談支援センターの相談員は見逃すことなく、ファミリーソーシャルワークの視点で然るべき機関につなげたこと—そこからこの事例が始まっている。

いくつかあった金銭的な課題は解決していくが、なにを持って臨んでもこのアパート独り暮らしの状況では本人の安全、安心、幸せへの道は望めない。

他者（人）との関わりを含む環境の変化を体験し、その適応状態によってはこれまでの生活が改善されるのではないかと、本人の力はまだまだその変化を受け入れるに十分である、と考え、バトンを経費老人ホームに渡した。

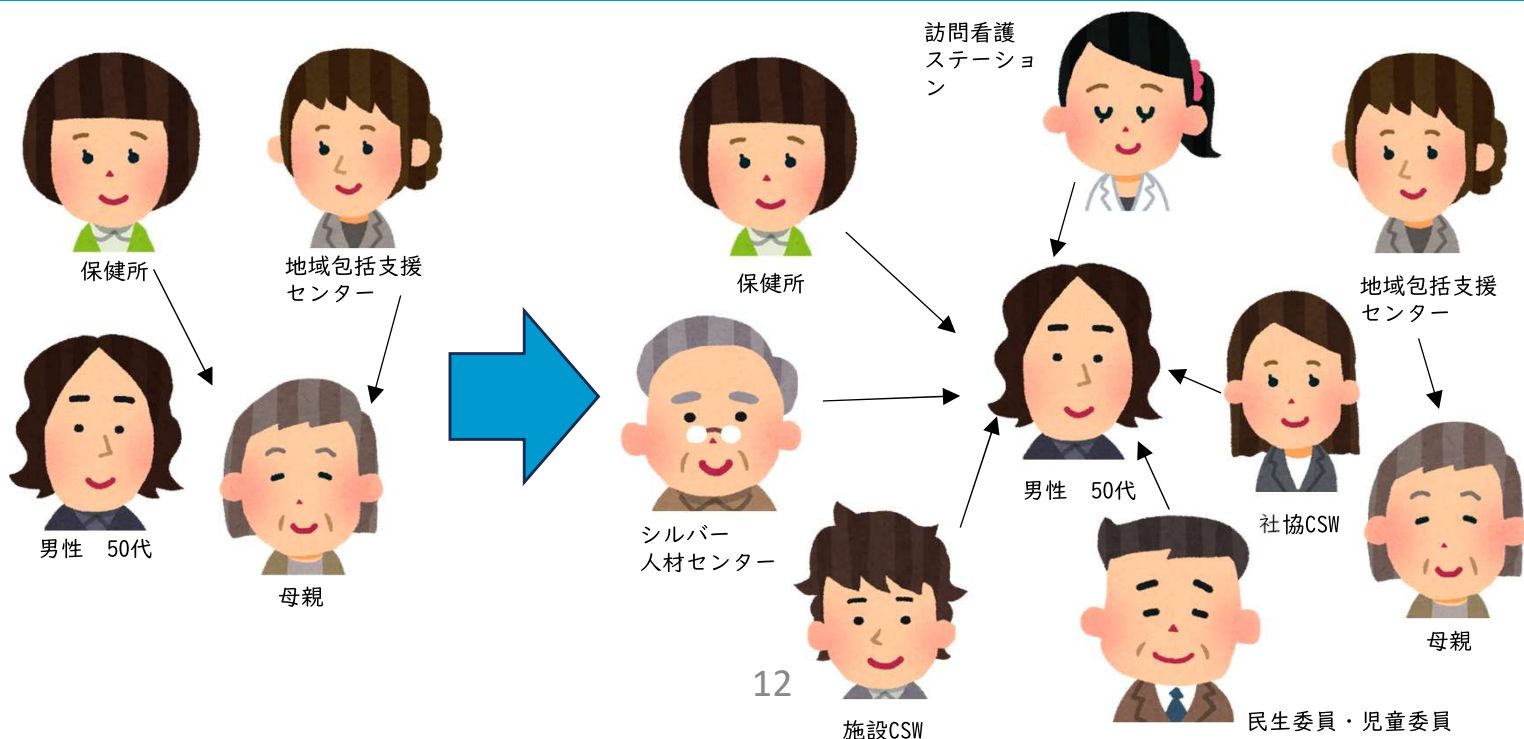
そこに至るまでには、市民ボランティアの複数回の関わりも、気になっていた家の片付けが穏やかな関りで行われ、本人に安心感を与えたことでは大きな力だった。本人の力を基軸にし、いくつかの支援がバトンでつながっていった事例である。

ひきこもり状態にある人への寄り添い 支援～^{はち まる ごー まる}8050問題～

対象者	50代 男性
世帯状況	一人暮らし 他市に両親在住、他府県に弟在住
相談経路	保健所→社協CSW
関係機関	保健所、地域包括支援センター、社協CSW、施設CSW、民生委員・児童委員、シルバー人材センター、訪問看護ステーション
相談主訴	(父親より) 長年ひきこもりの本人に自立してほしい、ごみ屋敷を何とかしたい。
相談背景	地域包括支援センターが認知症の母の支援を行った際、ひきこもりの長男がいることがわかり、保健所へつなげた。保健所にて父と包括と面談の際、父は高校卒業からひきこもっている本人に毎月年金からお小遣いを渡しており、「自立してほしい」「ごみ屋敷を何とかしたい」と訴え、保健所からCSWへ支援の依頼があった。

支援前

CSWによる支援後



支援内容

支援経過① つながり

母担当の訪問看護ステーションのスタッフが本人と会い、交野の生活の中での困りごとの聞き取りをきっかけに、社協CSWが本人の了承のもと、月2回の定期訪問を行う。



支援経過② 自宅内の掃除～施設CSWとの連携～

訪問の中で、施設CSWと連携を取り、本人と自宅の清掃や分別方法やごみ回収日の確認を行う。生活状況やお困りごとの聞き取りを実施。



支援経過③ かぐでんの支援と地域の人の協力

冷蔵庫の故障のため新しい冷蔵庫を施設CSWから譲り受ける。冷蔵庫搬入のため、地域の民生委員・児童委員3名、社協職員3名、施設CSW2名で自宅周りの草刈りと台所の片付けを実施。



民生委員・児童委員や地域の方の協力を得てガレージ内の古新聞やカレンダー、古い扇風機、空き瓶など本人に確認しながら片付け・清掃をおこなう。



支援経過④ 困りごとから、一緒に考える支援へ

本人が自宅周りのうっそうと茂っている植木をすっきりさせたいということから、伐採をシルバー人材センターへ依頼することになる。本人の手持ちのお金がないため、毎月の収支の確認を一緒にいき、お金を積み立てシルバー人材センターへ依頼した。



- ・8050問題（はちまるごーまるもんだい）

80代の親が自立できない事情を抱える50代の子どもを支え、生活が行き詰まり、社会から孤立する社会的問題として「8050問題」と呼ばれています。

- ・かぐでん

まだ使用できる家具や電化製品、衣類、寝具などを地域住民や関係者からご寄付頂き、経済的に困りの方に無料で提供します。

- ・民生委員・児童委員

地域に密着して、生活に困っている方や障がい者、高齢者の方々をはじめ生活上のさまざまな悩みを持つ人の相談・支援を行っています。（交野市HPより抜粋）

この事例を振り返って

8050問題は何十年もの長期にわたるひきこもりにより、関係機関や支援者とつながることがなかなか難しい。

このケースはその中で親が高齢となり本人に困りごとが発生することで、本人につながることができた。支援に時間をかけ、本人や家族に寄り添うことで、信頼関係が構築でき、自宅内の清掃や収支の確認、困ったときに相談できる場所という認識を持てただけた。

またほかの関係機関との連携を取ることで医療や高齢などの制度につながり、幅広い支援を提供することができた。



よくある質問コーナー



Q. 相談方法は？

A. 電話、訪問、メールなど様々な相談方法に対応しています。

Q. 相談費用はかかりますか？

A. 無料でご相談いただけます。



Q. 相談をどこにすればよいかわかりません。CSWに相談してもよいですか？

A. ぜひご相談ください。CSWがいる施設や社協のいずれにでもご相談いただけます（P.2参照）。相談内容に応じて適切な支援機関へお繋ぎします。

Q. 初回の相談時間はどのくらいかかりますか？

A. 初回の面談は、相談内容によって異なります。悩みや困りごとなどご相談内容を詳しくお伺いし、情報提供や解決の手立てを一緒に考えます。

Q. 手続きや面談に付き添ってもらえますか？

A. 内容に応じて付き添いが可能です。付き添いにかかる費用も無料です。

Q. 相談内容は秘密にしてもらえますか？

A. 秘密厳守します。



Q. 施設CSWと社協CSWの違いは何ですか？

A. 施設CSWは、急迫した生活困窮の方に「生活困窮者レスキュー事業（大阪府社会福祉協議会・老人施設部会による）」で食材、公共料金、住宅費などを現物支給にて支援することが可能です。社協CSWは居場所支援などお困りごとの仕組みづくりや、イベントや研修会を通して福祉について学ぶきっかけづくりを担っています。



交野市コミュニティソーシャルワーカー（CSW） 活動・事例報告書

発行・編集：CSW 合同会議

発行日：令和7年9月